

# 明日へ向かって駆ける

## 農業法人の経営者は語る

### あぐ里興 組合長理事

## 小西 始さん

「新しい農業機械の導入など効率的な農業経営で、先代から引き継いできた農地を大切に維持していきたい」と話すのは福知山市興(おき)地区の農事組合法人あぐ里興の組合長理事、小西始さん(69)。3代目組合長として、2018年度から法人経営に取り組んでいる。

興地域は同市中心部から東へ約6キロ。綾部市と接する東部に位置し、由良川沿いに農地が広がる。1993年に大規模圃場(ほじょう)整備が実施され、京都府で初めて一区画が1畝規模の農地となった。同法人は前身の興営農組合を発展的に解消し、2002年8月に設立。農作業受託組織として活動する、府内の農事組合法人として先駆的な存在だ。小西さんは12年度に理事に就任、14年度から副組合長を務めた。

# 省力・効率化は必須

現在、約22畝の農地で「コシヒカリ」「キヌヒカリ」の水稲を中心に小豆「丹波大納言小豆」、黒大豆エダマメ「紫ずきん」などを栽培している。昨年は災害や米の直接支払交付金の廃止による影響が出たが、売り上げは順調に推移している。日常の農作業は5人の理事を中心に進めているが、年4回ほどのあぜの草刈りなどは組合員の協力を得ながら行っている。「課題は組合員の高齢化による人手不足と後継者が見

つからないこと」という小西さん。課題解消へ向けて省力化、効率化への取り組みは必須と考えている。小西さんは「水稲の植え付け幅を24マと通常より広げること、10マあたり苗箱16箱の植え付けで済み、苗購入のコスト低下と機械作業がしやすくなる」といった省力化の工夫を欠かさない。

「これからの農業は新しい技術を取り入れて、少しでも労力を減らさないと続かない。反対の声もあったが、省力化には必要と導入を決めた」と笑いながら話す小西さん。そこには「地域の農地を守り、農業を次の世代につなぐ」という信念がある。



▶小西始組合長理事(右)と大槻武利経理担当理事

■法人所在地 福知山市興582の1。(電)0773(27)8518。

■法人概要 2002年8月設立。理事5人、監事2人、組合員44人、パート(農繁期)10人。経営面積 水稲17・1畝、「丹波大納言小豆」2・1畝、「紫ずきん」0・3畝、家畜用牧草4・2畝。農機具 自走式草刈り機4台、トラクター4台、田植え機3台、コンバイン2台、乗用管理機1台、シヨベルカー1台。